

WGにおける各意見への対応

資料5

分類	WGでの意見	対応
訴求ポイント	「そなえ」という文言は、多義的で分かりづらいのではないかな。	「そなえ」は一般的にも用いられている用語と考えているが、訴求ポイントごとに説明文を入れることにより、分かりやすさを補完していく。
	「そなえ」から施設被害を想起して、資料を探すのは難しいのではないかな。	訴求ポイントを強調を主眼とする「テーマから探す」の項目のほかに、キーワード検索や市町村ごとの検索を可能とする「詳細検索」の項目を設けることで対応する。
	教育委員会で作成する復興教育副読本における「いきる・かかわる・そなえる」とこのアーカイブの訴求ポイントをマッチさせることはできないかな。	「いきる」という部分を訴求ポイントに設定すると資料の収集が難しいと考えている。副読本の内容については、大項目・中項目の設定の参考にさせていただいたもの。
	「障がい者等への対応」は、「前例なき行政対応」の中に含まれないかな。また、「障がい者等への対応」について公開できる資料がどの程度あるかという懸念がある。	「障がい者等への対応」には、地域コミュニティでの見守り等共助の要素も含まれる。また、大項目、中項目については、資料の量を勘案して、調整を行うことも検討する。
	訴求ポイントによる資料提示がこのアーカイブの肝だと考える。「テーマから探す」の部分でも、各項目について市町村ごとの資料が見られるようにした方がよいのではないかな。	「テーマから探す」の部分は、震災の経験・教訓を伝えることを主眼としており、細かい条件設定に対応しきれていないのが現状となっている。当該部分について、どこまでの条件設定に対応できるか、検討を継続するとともに、詳細検索についても市町村が利用しやすいものとなるよう、画面構成等について検討していく。
	市町村名にとどまらず、各地区名(釜石市平田地区など)までタグ付けできないかな。	地区ごとの分類をシステム上で行うことは考えていないが、資料名に、例えば、「被災写真(●●地区)」と記載すれば、地区名でキーワード検索を行うことが可能となる。
	「たろう観光ホテル」などの「岩手らしさ」を中項目で表現できないかな。	アピオでの物資の集中管理など、いわゆる「岩手方式」のようなものは、震災対応の随所で見られるが、これらをすべて中項目化するのには細かく難しいと考える。実際のページでは、大項目ごとに説明文を設けるので、その中で「岩手らしさ」を説明していきたい。
	教育のために資料を取り出しやすい形にした方がよいのではないかな。	「テーマから探す」のほか、サブコンテンツとして、防災教育関係資料を特出しする方向で調整を進める。
	外国人にも対応できるサイトにした方がいい。	翻訳機能をシステムに入れることで調整を進める。
時間軸	県災害対策本部の廃止時期である「5ヶ月」後については重要な区切りであるが、利用者の分かりやすさという観点から、「5」という数字を必ずしも重要視する必要はないのではないかな。	次のとおり時間軸を設定する。 「発災前」「発災直後」「1週間」「1ヵ月」「3ヵ月」「5ヵ月」「1年」「3年」「6年」 ※ 「5ヵ月」⇒県災害対策本部の廃止時期 ※ 「3年」「6年」⇒県復興計画における復興期間に合わせたもの